

株式会社ジェック東理社



会社全景

ジェック東理社は、1932年に東京で「東理社理化研究所」として設立された、真空・極低温・電磁気関係の研究開発と機器類の設計・製作を行う企業です。1935年には本邦最初のメーカーとして液化ガス用金属製容器の製作に成功しました。その後、戦争や災害などの困難を乗り越えながら、原子力・宇宙・医療・産業などの分野で多くの業績をあげました。

1997年には、米国 CVI 社と合併会社だったジェック株式会社と株式会社東理社が合併して、株式会社ジェック東理社となりました。現在は埼玉県川越市に本社を置き、高真空・極低温技術を得意とするメーカーとして、多くの研究開発分野や産業界のニーズに応える液化ガス容器や高性能真空断熱配管・低温機器・高圧ガス機器・真空機器などの開発設計製作からメンテナンスまでトータルエンジニアリングサービスを提供しています。企業理念「極低温技術を通じて未来社会の創出に貢献します。」を掲げ、今後は、2050年の脱炭素社会実現やITによる社会変革に向けて、テクノロジーの革新に挑戦して行きます。



液化窒素容器シーベルシリーズ



真空断熱配管(V.J.P.)と気液分離器

合併後の沿革

平成 9 年 4 月 (1997)	株式会社東理社とジェック株式会社の合併により、株式会社ジェック東理社に社名変更、資本金1億円で発足、本社所在地を埼玉県川口市より埼玉県川越市に移転。
平成 9 年 4 月 (1997)	米国、アメリカンマグネティックス社(AMI)と販売総代理店契約を締結、超電導電磁石システム及び機器の販売拡大を開始。
平成 10 年 10 月 (1998)	核融合科学研究所殿へ、日本酸素株式会社殿経由にて大型ヘリカル装置用 LN2 真空断熱配管を納入。
平成 12 年 2 月 (2000)	東京大学物性研究所殿へ超高压・磁場中性物質測定システムを納入。
平成 12 年 3 月 (2000)	理化学研究所ゲノム化学総合研究センター殿に、株式会社鈴木商館殿経由にて「ヘリウム回収液化装置等設備工事の液体窒素供給設備」を納入。
平成 13 年 6 月 (2001)	あらゆる物性研究に必要で、非常に有効な熱量計を開発。Windows 上での温度制御、測定条件などの完全自動化システムで熱容量(比熱)、転移熱・潜熱の測定を可能にし、今までに無い精密な“断熱型熱量計”を世界で初めて開発、物質工学工業技術研究所(現産業技術総合研究所)殿に納入。
平成 21 年 3 月 (2009)	中部大学殿に DC 超伝導ケーブル冷却循環システム及び真空断熱配管を納入。 ※この設備は NHK、日本経済新聞等に紹介されました。
平成 25 年 10 月 (2013)	本社所在地に第 2 工場(床面積:954m ²)を竣工。
平成 25 年～28 年 (2013～2016)	大型低温重力波望遠鏡(KAGRA プロジェクト)にて、「低振動冷凍機ユニット」、「超高真空チャンバー」等を納入。
平成 25 年～27 年 (2013～2015)	「石狩超伝導直流送電プロジェクト」(石狩プロジェクト)にて、「超伝導ケーブル用断熱二重管(500m/1000m)」、「端末クライオスタット」、「冷却循環システム」等を納入。
平成 29 年 11 月 (2017)	液化窒素容器シーベルが「川越ものづくりブランド KOEDO E-PRO」の 2017 年度大賞を受賞。 ※E-PRO は埼玉県川越市と川越商工会議所が市内で生産された優れた工業製品・技術を認定する制度です。

お問い合わせ先



株式会社ジェック東理社 営業部

Tel: 049-285-7555

E-Mail: U359510@jecctorisoha.co.jp

